

ビジティング・リサーチャー(VR)論博プログラム

ブータンから初来日！



10月30日、淑徳大学アジア国際社会福祉研究所ビジティング・リサーチャー(VR)論博プログラムは2人目のVRをお迎えしました。デチェン・ドマ(Dechen Doma)先生の母国ブータンはソーシャルワーク教育プログラムがありません。デチェン先生はブータン初の社会福祉の博士号取得者となるべく2年間日本に滞在し、論文作成を続けられます。デチェン先生はオーストラリアでカウンセリングの修士号を取得、ブータン王立大学サムゼ教育校(Samtse College of Education, Royal University of Bhutan)で上級講師として勤務されています。先生の論文テーマは「A humanistic and Buddhist Approach to Social Work in Dealing with Drug Addiction among Youth in Bhutan(ブータンにおける若年薬物中毒者に対するソーシャルワーク、人間的・仏教的からのアプローチ)」です。

アジア諸国のソーシャルワーク大学教員養成ニーズはますます大きくなっており、アジア圏域のソーシャルワーク教育機関の大きな期待が淑徳大学に寄せられています。

アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟(APASWE)、淑徳大学の貢献に
表彰、感謝の盾が授与される



APASWE はその貢献を称え淑徳大学と秋元所長(APASWE 理事)を表彰した
(盾を受け取る秋元所長(左)とフェンティニ・ヌグロホ APASWE 会長(当時・右))

9月28日中国^{シンセン}深圳で開催されたAPASWE総会において、今日までの淑徳大学の
協力と貢献に特別の感謝の意が表され、会長より盾が贈呈されました。APASWEは
1974年に設立以来、アジア太平洋地域内主要ソーシャルワーク大学を網羅している
連盟です。淑徳大学は、永年APASWE の会員であり続けるだけでなく、特に4年前
のアジア仏教社会福祉学術交流センターの設立以来、APASWE会長オフィスを支え、
また現アジア国際社会福祉研究所長が前会長(理事)として組織運営に尽力してきま
した。

現在もアジア国際社会福祉研究所のもと、ビジティング・リサーチャー論博プログラ
ムをはじめ共同調査研究、国際フォーラム等を実施しており、今回の表彰は、アジア
太平洋地域内ソーシャルワークの研究教育の前進への協力と貢献を続ける淑徳大
学への海外からの評価といえます。

◆アジア国際社会福祉研究所のニュースがSナビにて月1回程度配布されております。